

## 朝美納豆(アーサー・ビナード)さん

6月11日(土)に、横浜市栄区9条の会の「10周年のつどい」が本郷台の地球市民プラザで開催されました。この日のゲスト・スピーカーは、アメリカ人の詩人、絵本作家アーサー・ビナード氏(1967-)で、ユーモアたっぷりに「17分間オバマになりきった男」と自己紹介をされました。



彼はオバマ大統領が広島を訪問した日、あるTV局の同時通訳の中継を引き受けられました。短時間の訪問で、肉声はスピーチだけでした。スピーチは5分間と想定されていたようですが、17分にもなり、非常に驚いたようです。通常は同時通訳は5分単位で交代をするとのこと。先入観や批判なしに、オバマ氏の言葉をそのまま伝えました。いつもは終了後に1日半ほど、不備を思い、落ち込むのだそうですが、今回は上出来に終わって、非常にスッキリしたとのこと。それは、オバマ大統領のスピーチには大統領としての責任ある発言、また、現地に来たからこそできる発言が皆無だった。出来上がっている、整った、原稿を読んだだけで、最後まで事実、現実には触れない、美辞麗句だったからとのことでした。伝え終わると、空疎さを実感したとのこと。

オバマ氏のスピーチの冒頭は、**71 years ago, on a bright cloudless morning, death fell from the sky and the world was changed.** でした。死が自然現象の雨であるかのように降って来たって？爆弾を落とした奴がいたじゃないか！世界が変化したって？核爆弾が破壊、殺傷し、汚染し続けているのだ！オバマ氏は核兵器廃絶を希望して大統領になりました。就任直後に、プラハでスピーチをして、2009年ノーベル平和賞を得、期待されました。彼は何と云って大統領になったか？**“Yes, we can.”** 一体何が出来たか？オバマ氏は核軍縮どころか、出来たことは2020年までに核兵器の運用を最新のシステムに向上させる制度であった。核兵器なき世界を追求する勇気を持たねば、と言いながら、現に広島に核兵器発射ボタンを持参しました。あの黒い鞆を。核廃絶とは真逆の実態です。もう一つは**“Change!”** でした。この動詞に目的語があったらどうか？もしかしたら「お釣りが欲しかったの？この単語は自動詞だった。自分がchangeして、アメリカ軍需産業と金融界の操り人形になっただけである。成果は何もなく8年の任期は終わり、賞味期限切れの大統領として広島に来ているので、現職大統領として来たと喜ぶのは馬鹿げている。

オバマ氏だけが美辞麗句を弄して、現実をごまかしているのではない。2015年、広島市長は平和宣言の冒頭で、「**私たちの故郷には、温かい家族の暮らし、人情あふれる地域の絆、季節を彩る祭り、歴史に育まれた伝統文化や建物、子どもたちが遊ぶ川辺などがありました**」と言いました。原爆投下の日の広島は桃源郷のようです。本当？**温かい家族の暮らし**は、兵役、勤労奉仕、**人情あふれる地域の絆**は、監視の目、**季節を彩る祭り**は、食糧難で自粛、**歴史に育まれた伝統文化や建物**は、建物疎開で破壊、**子どもたちが遊ぶ川辺**などは、危険。広島は軍都であり、人々は戦争一色でした。「戦争反対、平和」など、言うものなら、即刻、特高に捕まるのが実態でした。

今は、このように事実を自由に、批判的に言えます。それは憲法が言論の自由を保障しているからなのです。そして真実な、誠実な言葉で、平和な世界を作っていかなければなりません。9条を持つ憲法によって、平和に生きることができる。日本国憲法を真剣に守りましょうと訴えられました。アメリカ人も平和を願い、核廃絶のため闘っていることを知らされました。